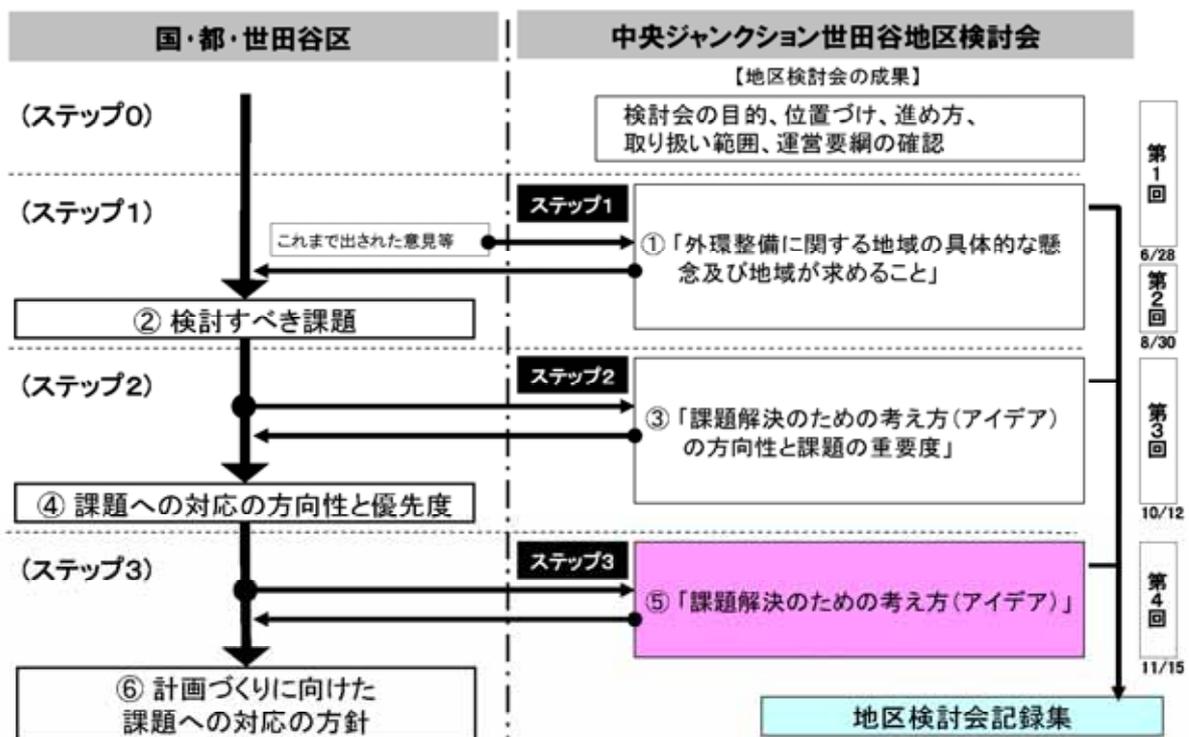


(3) ステップ 3

【検討会運営事務局】

課題解決のための考え方(アイデア)



中央ジャンクション世田谷地区検討会

課題解決のための考え方(アイデア)

【本資料について】

- ・本資料は、中央ジャンクション世田谷地区検討会において、ステップ3でのメンバーの議論の成果です。
- ・課題解決のためのアイデアを、グループ毎に掲載しました。
- ・対応する課題ごとにアイデアを整理し、さらに「計画内容」に関するアイデアと「進め方」に関するアイデアに大きく分類しました。
- ・「計画内容」に関するアイデアは、トンネル部、ジャンクション部、環境施設帯、換気所、周辺部、にさらに分類し、記載しました。
- ・また、「進め方」に関するアイデアは、計画、調査、工事、管理、PI、その他に分類し、記載しました。

Aグループ

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りの分断による不便を解消し、バスの通行ができるようにするために、現況道路の幅員を拡幅してほしい。また、自転車・歩行者のアクセス動線を確保してほしい。
- ・外環東側部にある土地は接続道路がなく不便になる。また現在、細い生活道路の行き来がしにくいので、幅員が充分な道路を造ってほしい。
- ・三鷹都市計画道路3・4・11号線は換気所の影響で、オーパーバス部分が鈍線になっている。生活に困るので三鷹都市計画道路3・4・11号線はまっすぐな道路にしてほしい。
- ・換気所を移動することにより、三鷹都市計画道路3・4・11号線のオーパーバス部分を直線にすることができる。
- ・東八道路、東八ICを作ったら、車の通行量が増えるので、都市計画道路補助217号線を早期につくる必要があるのではないかな。
- ・都市計画道路補助219号線のルートを烏山通りに接続するように変更すると丁字の交差点ができ、烏山通りの交通量が増えてしまう。また、交差点の角度の問題はあるが、都市計画道路補助219号線は中央道明道に接続した方がいい。
- ・三鷹都市計画道路3・4・11号線の中央JCT交差部分は直線にできないのかな。
- ・三鷹都市計画道路3・4・11号線のオーパーバス部分のS字カーブを直線化してほしい。
- ・生活道路は車を差して歩く人と自動車安全に歩くことができるためには4メートルでは充分ではない。
- ・生活道路に車が通行させたくない人もいるが、火災時などを想定すると車が通行できないのは問題である。
- ・地区内の生活道路は、車の交互通行、火災時の緊急車両の通行を可能にするために幅員6メートルが必要である。

2. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・東八ICができることにより、烏山通りの通行量が増えることが予想されるが、幅員が狭く、信号が多いために、渋滞が起こるのではないかな。烏山通りを有整備してほしい。
- ・烏山通りは現状の幅員では車の通行量をさばくことができない。東八ICから甲州街道に行くために烏山通りを通る。吉祥寺通りと甲州街道の交差点は右折する信号が短いので抜けることができな。烏山通りは、右折レーンの整備と現況幅員の拡幅が必要である。
- ・烏山通り、吉祥寺通りと甲州街道の交差点は、右折レーンがない。交差点を拡幅して、右折レーンをつくるなどの対応が必要である。

- ・全体の道路ネットワークの中で都市計画道路補助219号線は必要性が疑問。外環整備に伴い、都市計画道路補助219号線などの道路について、必要性を再考してほしい。
- ・吉祥寺通りの代替として、都市計画道路補助219号線が整備されることを心配している。三鷹都市計画道路3・4・3号線を整備し、あとは中川遊歩道沿いに道をつくれれば充分である。
- ・環状施設帯に側道をつくれれば、都市計画道路補助219号線を整備する必要はない。
- ・都市計画道路補助219号線と烏山通り・中央自動車道の側道との交差点は鋭角に交差する危険な交差点になることにより、交通事故や大渋滞が発生することを懸念している。都市計画道路の計画変更をしてほしい。
- ・日本女子体育大学の敷地が都市計画道路補助219号線整備により、4分割されてしまう。代替地による補償ではなく、都市計画道路補助219号線を廃止してほしい。都市計画道路補助219号線が整備される場合には、交通の危険がある。また、三角形の敷地が残ってしまうので区道を廃止するなどの対応をしてほしい。
- ・東八ICから降りた車により烏山通りの負担が大きくなる。東八ICから降りた車はなるべく東八道路を通ってもらえらるようできないかな。
- ・吉祥寺通りの拡幅整備。
- ・東八ICができると烏山通りや地域内の裏道が車ではいっしょになってしまうので、地域全体の基盤整備が必要である。

3. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

管理の進め方に関するアイデア

- ・外環から中央自動車道高井戸IC方面に行く場合の通行料を高く設定すると、東八ICから出る車が増えて、烏山通りが混雑するのではないかな。東八ICから降りないよう情報提供する必要がある。

4. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・中央JCT料金所職員への健康被害に配慮してほしい。
- ・中央JCTのオーブン部分からの騒音悪化を心配している。蓋掛けをできるだけしてほしい。その場合、景観や活用方法も有効なものを期待する。

換気所の計画に関するアイデア

- ・地区内に換気所が2カ所できることによる環境への影響を懸念している。完全に無害化できる機能を持った換気装置をつけてほしい。
- ・換気所が2本あることにより、2倍の大気質の汚染があるのではないかな。換気所を高くして、大気中に拡散できないかな。

- ・もし換気所がカーブ所故障したときにバックアップするために換気所の数を増やす。

PIの進め方に関するアイデア

- ・さまざまな国の条件に対応した排出ガスの拡散シミュレーションをしてほしい。
- ・換気所の高さによる影響の科学的な調査をしてほしい。

5. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・環境施設帯の緑地活用をしてほしい。

6. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・環境施設帯に作る側道は、高速道路側に植樹帯をつくり、歩道には街路樹は必要ない。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・外環が整備されることにより渋滞が解消されて、エネルギーの有効利用につながることを期待する。しかし、排出ガスによる影響を懸念しているため、排出ガス対策をしてほしい。

7. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りは平面的のまま、通行できるように中央JCTの構造を工夫してほしい。
- ・中央JCTの構造が複雑であることにより、中央JCT内の走行が複雑である。また、吉祥寺通りを分断することになる。構造を再考してほしい。
- ・なるべく地域分断をしないことを最優先にしたJCTの構造してほしい。
- ・JCTを高架構造にする側道を通すことができる。日陰の影はない。騒音については防音壁を付けることにより対応できる。美木木 JCT のように信号を付けることにより、全体を小さくできる。排出ガスは構造に関係なく出てしまうので影響はない。東八ICは、入口からすぐ下り勾配にすることにより、地域分断をふさげるのではない。
- ・JCTの構造が複雑すぎる。外環と中央自動車道の出入りの車が全て東八道路に出てしまう。東八ICの出入口から道路を下げ、橋を架けることにより、地域分断の影響を少なくすることができる。
- ・JCTを高架構造にすることにより、緑や側道をつくってほしい。
- ・地域分断を100%防ぐことは無理かも知れないが、地域分断を70%くらいは防ぐようにし

ないといけない。

- ・JCTの地下化により、中央道による道路分断も生じる。外環と中央道と一緒に対応してほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・外環により生活道路が分断されるので利便性を確保するために環境施設帯に側道を作ってほしい。環境施設帯は緑だけでなく、人が通れるようにしてほしい。
- ・現在、中央自動車道の側道が変則的で使いにくい（三鷹市内は側道が高速道路の片側で交互通行、世田谷区内は両側でそれぞれ一方通行）。側道は、車と人の安全性が確保されるように、幅員の確保と交互通行にしてほしい。
- ・北野小学校の通学路を確保するために中央JCT 上部の利用が可能であれば、生活道路をとおしてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りの分断による不便を解消し、バスの通行ができるようにするために、現況道路の幅員を拡幅してほしい。また、自転車・歩行者のアクセス動線を確保してほしい。
- ・外環境界部にある土地は接続道路がなく不便になる。また現在、細い生活道路の行き来がしにくいので、幅員が充分な道路を造ってほしい。
- ・生活道路である吉祥寺通りが分断されると不便になる。中央JCT 部分に蓋かけをしても残してほしい。
- ・地区内のあらゆる生活道路が分断されてしまう。なるべく分断されないようにしてほしい。
- ・生活道路が分断されてしまう。中央JCT 上部等を活用して、生活道路をできるだけ活かしてほしい。
- ・北野地区には日本女子体育大学の生徒が下宿をしており、東名ICの出入口への道路によって、分断されると生活できない。三鷹都市計画道路3.4.3に加えて、自転車で行けることのできる教本の通りが必要である。

PIの進め方に関するアイデア

- ・東八ICの入口から中央JCTにかけて地区が現在平面で通過できているものが分断されるので、地域社会に大きな影響がある。検討会をするため口ほどの場所が蓋かPIが可能かを具体的に示すことが必要である。
- ・対称のアイデアを出すためには、JCTの構造を示すのは平面図ではなく、立面図で示す必要がある。

8. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・中央JCT部分をグラウンドにするなどの有効活用をしてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・東ハICができることにより、周辺の農地が物流センターに変わるなど土地利用が変化するのはないか。土地利用を規制して防ぐことができないか。
- ・都市計画道路補助217号線は、既に建物がたくさん建っているのに、区画整理をすることができないため、整備するのは難しい。

9. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・中央JCTの構造が複雑であることにより、中央JCT内の走行が危険である、また、吉祥寺通りを分断することになる。構造を再考してほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・現在、中央自動車道の側道が変則的で使いにくい（三郷市内は側道が高速道路の片側で交互通行、世田谷区内は両側でそれぞれ一方通行）。側道は、車と人の安全性が確保されるように、幅員の確保と交互通行にしてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・現在、地区内道路は歩道が未整備であり、インターができ交通量が増えたとき、安全面で不安がある。安心して歩くことのできる歩道を整備してほしい。
- ・東ハICができることにより、現在両側道になっている道がさらに通行量が増えるのではないのか。通学路などの生活道路におけることもたちの安全確保をしてほしい。
- ・都市計画道路補助219号線は、烏山通り・中央道側道の交差点は危ない交差点になってしまふ交通安全上の問題がある。
- ・日本女子体育大学の敷地が都市計画道路補助219号線整備により、4分割されてしまふ。代益地による補償ではなく、都市計画道路補助219号線を廃止してほしい。都市計画道路補助219号線が整備される場合には、交通の危険がある。また、三角形の敷地が残ってしまうので区道を廃止するなどの対応をしてほしい。
- ・地域内の主要な道路は拡幅等が必要であるが、それ以外の道路は緊急自動車の通行可能な幅員を確保し、交通規制により通歩交通が入らないようにする。

- ・外環・JCT整備後も分断されない地区内の道路は、交互通行できるように整備をしてほしい。
- ・側道の防犯対策に街灯を設置する、しかし、畑が明るくならないようにしてほしい。

10. 安全・安心（災害・事故時の対応）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

- ・事故発生時のトンネル内の安全確保は十分なのか。

・ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・JCT内で交通事故が発生したときの緊急避難等の対応は十分なのだろうか。

11. 工事（工事中の交通への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・東ハICから出た車が吉祥寺通り、烏山通りを通行せずに東八道路を通るようにしてほしい。吉祥寺通り、烏山通りは高齢者の交通事故が増えており、横断するのが大変である。
- ・外環の工事中にダンプによる土砂崩出のために東八、烏山通りを使う場合には粉塵と交通量増が心配される。

12. 工事（工事中の環境への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・外環の工事を行うときに土砂などの排出をどのようにするのか計画を教えてください。

13. 工事（交通の安全性）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・外環の工事はいつからはじまるか早く教えてください。

14. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

用地補償の進め方に関するアイデア

- ・都市計画道路補助219号線を整備することにより、日本女子体育大学の敷地を分断し、面積が縮小するために大学運営に問題が起ることを懸念している。地域に根ざした大学であるの

- で、代替地を確保してほしい。
- ・相模線納税貸与制度を活用した生産緑地が外環の整備に合わせて収用されると相続税に加えて、延納分の利子税を納めなくてはならない。土地を買収する場合には、代替地の確保や利子税分の補償をしてほしい。
- ・日本女子体育大学の敷地が都市計画道路補助 219 号線整備により、4 分割されてしまう。代替地による補償ではなく、都市計画道路補助 219 号線を廃止してほしい。都市計画道路補助 219 号線が整備される場合には、交通の危険がある。また、三角形の敷地が残ってしまうので区道を廃止するなどの対応をしてほしい。
- ・外環整備により影響のある人に向けて対応をすることが必要である。地権者はまだ関心がないので、校代会以後は、地権者を中心とした懇切丁寧な説明会が必要である。
- ・外環整備等による残地（三角地）や代替地への対応など地権者の切実な問題を話しあう必要がある。

15. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

- ・世田谷・調布・三鷹・杉並と一緒に考えてほしい。
- ・外環による影響は死活問題である地元地権者、住んでいる人が一番尊重して、決めてほしい。
- ・調布・三鷹・世田谷・杉並と一緒に検討をしないと全体が見えてこない。地域の見解を議論する場と地権者の意見を聞く場を分けるなど丁寧に会議を行う必要がある。
- ・何らかの形で今回の校代会のような場を継続的に開催してほしい。

16. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・既存の道路のうち、残る道路と廃止になる道路を教えてください。
- ・校代会以降は、地権者に対して、早めに、分かりやすく、細かく、丁寧に計画に関する情報を流す必要がある。
- ・地権者に対して、整備のスケジュールを具体的に示す必要がある。
- ・今回の校代会で終わりでなく、今後も話しを聞きたい。烏山通りがどうなるか地域全体に関わる問題なので関心がある。
- ・今回の校代会のような呼びかけ方法を少し工夫してほしい。知人で集客締切のあとで校代会のことを知った人がいた。
- ・校代会以後も節目には報告を聞きたい。

Bグループ

にしてほしい。周辺の景観に配慮したとのことだが、近くの三鷹市環境センターの排気塔は59m あるので、中央JCTの換気塔だけ低くする必要性は感じられない。

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りの分断を解消するため、吉祥寺通りから側道で三鷹都市計画道路 3・4・11 号線につなぐとともに、調布都市計画道路 3・4・17 号線を同時に整備し、甲州街道（国道 20 号）までつなげる。

2. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・交通量の増加に対応するため、吉祥寺通り、烏山通り、松葉通りなどの拡幅等による交通機能維持・強化、一般道の都市計画道路整備を実施する。
- ・生活道路の分断解消のため、三鷹都市計画道路 3・4・3 号線を整備する。都市計画道路沿補助 219 号線は必要性を検討する。

3. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・東ハIC を利用する交通が甲州街道に流れるため、吉祥寺通り、烏山通りなど甲州街道（国道 20 号）につながる道路が現状以上に渋滞することが懸念される。インターチェンジは東八道路ではなく甲州街道（国道 20 号）に設けた方が利便性が高く、地域への影響も少なくなる。

4. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ジャンクションからの排気や騒音が心配。できるだけ蓋掛けしてほしい。

換気所の計画に関するアイデア

- ・換気所から排出されるNox が心配であるため、脱Nox 対策を実施する。
- ・換気所の高さが他の地域より低く、周辺に排出ガスの影響が増えるのではないかと心配である。防消装置が装備されず、高さによる影響の差が明らかでないのであれば、他の地域と同じ30m

PIの進め方に関するアイデア

- ・換気所周辺の大気質が悪化するのではないかと、特に停電等の事故時に電気集塵機の故障で排出ガスが処理されずに周辺への影響が増加することへの心配である。事故時の対応について、情報提供してほしい。
- ・換気所に関して、首都圏中央環状線での影響に関する情報を示してほしい。

5. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ジャンクションからの排気や騒音が心配。できるだけ蓋掛けしてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・現在の中央道からの騒音を低減させるため、南側の防音壁を上げる。

6. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・生活道路の分断の解消、建物が既存不適格となることを防ぐため、環境施設帯を利用した側道とそにつながる生活道路を車線 2 車線十歩道で 6m で整備する。
- ・生活道路の通行機の確保とともに、地域の人が楽しく散策できるよう、環境施設帯に遊歩道や自転車道を設ける。
- ・雨水を利用して、池やビオトープなどを環境施設帯につくってほしい。

換気所の計画に関するアイデア

- ・地域への利益還元のため、排出ガスなどの廃熱エネルギーを活用する。
- ・停電時に排出ガスを適切に処理するため、太陽光発電機を設置する。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・地盤の低下を防止するため、特に地盤下層が予想される給田 5 丁目など第一種低層住居専用地域の用途地域の見直しを行い、建ぺい率および容積率を上げる。

7. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・生活道路の分断の解消、建物が既存不適格となることを防ぐため、環境施設帯を利用した側道とそこにつながる生活道路を単線2車線+歩道で6mで整備する。
- ・第六中学校の通学路の分断を解消するため、北野1丁目と2丁目の間の通行機能を確保する。
- ・外環の整備によって北野3丁目、4丁目と給田5丁目間の通行が分断されることから心配である。これらの地味は通学や親類同士の往來のため、結びつきが強い。多少、複雑になってもジャンクションを通過できるよう、環境施設帯に遊歩道、自転車道、歩道を設けてほしい。
- ・接道する土地の地面の低下を防ぐため、環境施設帯を利用して設置する側道は6mを確保する。
- ・環境施設帯を利用して設置する側道は6m以上とし、通学路の安全が確保できるように歩道を設ける
- ・中央ジャンクションの整備により生活道路が分断されることを懸念する。環境施設帯を利用した側道や、環境施設帯内に連絡路を設置する事で、中央ジャンクションにより分断される生活道路の機能を維持してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・北野中央通りの分断を懸念する。北野中央通りの機能が維持されるように環境施設帯を利用して側道を設置し、南北が分断しないようにしてほしい。

8. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・地域の防火性を向上させるため、環境施設帯に反設住宅建設などのための防災用広場を設ける。
- ・地域の雨水排水に影響が出ないよう、排水計画を踏まえた整備とする。

9. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・通学路の分断を解消するため、安全な通学路を確保する。

10. 工事中（工事中の交通への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・工事中の工事車両は相当多いのではないかと、生活環境や地域交通への影響を懸念する。工事中

は一般道を使わず中央道に臨時出入口を設け、中央道により資材や残土等の搬出入を行う。あるいは、東八Cを取り止め、ジャンクションのみとし、工期を短縮し工事車両を減少させる。

- ・工事車両が通行する場合の一般道の安全性や生活環境への影響に対応するため、外環整備を行う前に関係する三鷹都市計画道路3・4・3号線、3・4・11号線等を整備する。
- ・工事中に吉祥寺通りの機能が失われることを懸念する。機能が維持されるように計画的に整備してほしい。

11. 工事中（工事中の環境への影響）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・工事車両が通行する場合の一般道の安全性や生活環境への影響に対応するため、外環整備を行う前に関係する三鷹都市計画道路3・4・3号線、3・4・11号線等を整備する。
- ・工事中の工事車両は相当多いのではないかと、生活環境や地域交通への影響を懸念する。工事中は一般道を使わず中央道に臨時出入口を設け、中央道により資材や残土等の搬出入を行う。あるいは、東八Cを取り止め、ジャンクションのみとし、工期を短縮し工事車両を減少させる。

12. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

用地補償の進め方に関するアイデア

- ・都市計画道路補助219号線沿線の大学機能への影響を低減するため、ルートの変更あるいは、隣接代替地を確保する。
- ・買収用地で従前とおりの土地利用ができない残地について、十分な補償をする。

13. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

- ・都市計画決定から41年を経て都市計画変更決定して、さらに今後10年間で事業化できないのであれば、もう白紙に戻してほしい。

14. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

- ・最終成果物である「地区検討会記録集」が事業にどのように反映されるのか明確にしてほしい。活かされること、活かされないこと、それぞれの理由を含めて明確にしてほしい。単なる記録集とならないように活かしてほしい。
- ・検討会での住民の意見がどう反映されたのか、チェックする機能を担保してほしい。

- ・検討会が終わるまでに、出された意見が今後の議論に何をどう活かすのかを示すなど、行政として誠意を見せてほしい。

15. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・各区市から出された要望書への回答より具体的な対応を示してほしい。
- ・事業の進捗こともない、情報提供を随時行う。
- ・外環の整備や都市計画道路補助 219 号線の整備スケジュールが明確にならないと、大学の将来計画が立てられない。スケジュールを早期に明らかにしてほしい。
- ・中央ジャンクションに関わる三鷹市、調布市、世田谷区の3区市の合同によるPIを開催してほしい。
- ・外環の整備や周辺の都市計画道路の整備スケジュールを明確にすることで、住民の生活設計がたつようにする。

Cクルーズ

1. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ジャンクションやインターチェンジの経路が複雑で、事故が起これるのではないかと心配である。特に練馬方面との出入りでUターンすることは、この地域に排出ガスを撒き散らすようなもので大気への影響が心配である。東八ICの北に練馬方面へのインターチェンジと、中央自動車道の側道に直接出入りできるインターチェンジを新設すれば、CO₂ や交通量を分散できるのではないかと。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・甲州街道の渋滞解消のために、東八道路を環八まで延伸させれば、交通量が分散して、少しは解消されるのではないかと。

2. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・料金所や短絡部から出る騒音や排出ガスが多いのではないかと心配である。蓋かけなど構造上の検討をしてほしい。また、ジャンクションやインターチェンジを利用する車の台数が予測されているのだから、排出ガスの影響がどれくらいあるのかを予測してほしい。

管理の進め方に関するアイデア

- ・中央自動車道の下り方面を利用するには、東八ICまで迂回する不便な計画なので、環八道路の近くに下り方面の入口を新設してほしい。
- ・中央自動車道の上り方面が、朝や土日に渋滞しているため、環八道路から首都圏料金所までの区間は3車線にして渋滞を解消してほしい。

3. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ジャンクションやインターチェンジの経路が複雑で、事故が起これるのではないかと心配である。特に練馬方面との出入りでUターンすることは、この地域に排出ガスを撒き散らすようなもので大気への影響が心配である。東八ICの北に練馬方面へのインターチェンジと、中央自動車道

の側道に直接出入りできるインターチェンジを新設すれば、CO₂ や交通量を分散できるのではないかと。

- ・料金所や短絡部から出る騒音や排出ガスが多いのではないかと心配である。蓋かけなど構造上の検討をしてほしい。また、ジャンクションやインターチェンジを利用する車の台数が予測されているのだから、排出ガスの影響がどれくらいあるのかを予測してほしい。

換気所の計画に関するアイデア

- ・換気所が2箇所計画されており、大気汚染が起これるのではないかと心配である。周辺地域の住民に影響が出ないように、換気所の高さをできるだけ高くしてほしい。
- ・換気所の高さが、三鷹市環境センターの煙突よりも低いので影響が無いと心配である。中央線状新幹線の換気所に比べても低く、CO₂ の処理能力が心配である。景観よりも大気質や騒音への対策が大切だと思うので、換気所の高さを15mではなく45mに高くしてほしい。景観に配慮して低くしろという意見は周回で聞いたことがない。低くするのは建設費用を抑えるためではないかと。
- ・換気所の高さは、周辺に高い建物がないので15mにしていると説明されているが、最近では7階建ての建物が建設され始めている。15mでは周辺の建物よりも低くなる可能性があるのだから、景観よりも大気質の影響を配慮して、30mよりも高くしてほしい。

4. 環境（騒音・振動・低周波音）の課題に対応するためのアイデア

Pの進め方に関するアイデア

- ・換気所から排出ガスを放出する際に低周波音が発生するが、その対策はできているのか心配である。1/3オクターブ周波数分析をして、周波数の成分を示してほしい。

5. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・見学会をしてみて、思った以上に地域に、緑や畑が多く、とても環境が良いと思った。外環が整備されると大気汚染による緑の減少や環境への影響が心配である。環境施設帯が緑の代わりになるようにしてほしい。
- ・外環の整備は地域の緑が減少してしまうのではないかと心配している。減少してしまう緑の代替として、インターチェンジの地上部を有効活用しても良いのではないかと。
- ・環境施設帯の幅を30mにして、掘削部の蓋かけ部分を減らしてできるだけ掘削を広くしてほしい。緑を現状より増やし10m程度の高木植を植えて、緑の質を高めてほしい。
- ・都市計画審議会や環境影響評価の内容を見ると、緑の広場や畑、雑木林、路地空間などのアメニティや住みやすさなどの視点が抜けており、環境の劣化が心配である。環境が劣化する分の代用を、中央JCT周辺の空間に多めに取るように計画してほしい。
- ・ジャンクション周辺の緑が少なくなることや心配なので、環境施設帯の境界部分をアヤキなど

の高木の並木にして、世田谷区が2032年度を目標としているみどり率33%に資する緑地にしてほしい。

- ・中央ジャンクション整備の地域分断は人間だけの問題ではなく、生物や植物にも影響があると思うので、生態系についても追加調査を行ってほしい。
- ・都市計画道路補助219号線の用地買収で、日本女子体育大学や隣接する敷地で三角形などの不整形で狭大な敷地が発生する。それらの敷地を入れ替えるなどして、整形化することができないか検討してほしい。都市計画道路補助219号線の整備をするなら、不整形で狭大な敷地を利用して、また周辺住民の協力を得て緑化してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・ジャンクション周辺の緑が少なくなることが心配なので、周辺の都市計画道路の沿道を並木にしてほしい。
- ・北鳥山もぐら公園（北鳥山/1丁目緑地）が都市計画道路補助219号線で分断されてしまうのが心配である。フレイパークとして利用されている他に遊歩所にも指定されており、緑豊かな生態系を保全するための代替措置が必要である。

6. 環境（環境一般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

- ・事前調査の試算による影響評価面だけで基準をクリアしているか不安なので、現在の環境から外環境通後の環境がどのような変化しているかを比較しているかモニタリング調査を継続してほしい。

7. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・この地区は、外環と中央自動車道が交差する位置なので、災害発生時に毛布や食料などを緊急輸送できるように、高架下や環境施設帯などに災害時のための備蓄倉庫をつくってほしい。
- ・中央自動車道などの高架下となる場所は暗く目が届きにくくなるので、防災倉庫などに利用してほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・環境施設帯を利用して、体育館やプールなどの複合のスポーツ施設をつくってほしい。騒音や排出ガスの影響がなくなるために屋内施設にしてほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・電線を地中化する場合には、地下に埋設される高圧電線が地表に近くなるので、長期的に見た、電磁波の影響がないようにしてほしい。

8. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・小学校などの施設は災害時の避難所に指定されているが、ジャンクション構造物で地域分断され、避難所までの経路が遠くならないようにしてほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・中央自動車道の側道は、利便性が高く、地域住民が利用する主要な道路である。分断されて通れなくなることが心配である。外環の整備後も行き止まりや回り道にならないように、側道を利用できるようにしてほしい。あわせて、杉並区境の北鳥山2丁目の側道を整備してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りの交通分断が心配なので、都市計画道路三鷹3・4・11の線形を見直して、ジャンクション部で迂回しても再び吉祥寺通りに戻るようにしたらどうか。
- ・吉祥寺通りのバス路線の分断が心配なので、吉祥寺通りや甲州街道の旧道を通り、京王線の千歳鳥山駅、仙川駅などとJR中央線の坂倉駅などを経由して循環するバス路線を見直してほしい。

9. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・この地域にはグラウンドなど、区の施設が少ない。中央高速道の高架下が野球場などに使われており、そういった地域の需要があると思うので、短期間に蓋をかけるなど有効活用してほしい。

10. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・生活に身近な生活道路は、4mまででそれ以上には拡幅しないほうが良い。生活道路に樹木道利用などの通過交通が増え、交通事故も増えるのではないかと心配である。

湖院には湧水があり、外環工事で水脈に影響が出て、枯れてしまわないか心配である。高湯院の湧水に影響評価調査の対象に入れてほしい。

計画の進め方に関するアイデア

- ・三鷹市に関する情報は三鷹市に任せておいた方が良く、世田谷区が口を出すことではないと思う。
- ・東ハIC周辺の烏山通りや吉祥寺通り、新設される都市計画道路などの交通量がどれくらいになるのか心配である。外環本線だけでなく、周辺の幹線道路の流れ、動線、交通量の増減などの交通予測をしてほしい。

17. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・中央 JCT から環八道路の路線を考えるために、北烏山1～9丁目の住民で話し合いの場を設けて、解決策を議論したい。

その他の進め方に関するアイデア

- ・外環開通後に環境アセスメント調査で示された予測と同じ地点でモニタリングし、予測値と実測値の比較と検証を行い、何か問題が生じた際にはそのつど対策が取れるようにしておいてほしい。
- ・以前、大学敷地内で建設工事をした時に、地下を掘ったら地下水が出た。この地域には水脈があり、外環工事で水脈が切れて井戸水などに影響がないようにしてほしい。

18. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・料金所や短絡部から出る騒音や排出ガスが多いのではないかと心配である。嵩上げなど構造上の検討をしてほしい。また、ジャンクションやインターチェンジを利用する車の台数が予測されているのだから、排出ガスの影響がどれくらいのあるのかを予測してほしい。
- ・換気所の高さは、15m でも45m でも換気性能は変わらないと説明されているが、低くてもよいという根拠になるデータを示してほしい。
- ・烏山通りから天神山通りまでの中央自動車道の軌道が計画に示されておらず、分断されるのではないかと心配である。どのような道路になるかを歩道も含めて示してほしい。
- ・生活道路が計画地で分断され行き来できなくなることが心配なので、分断の可能性のある道路については、将来の計画を説明してほしい。
- ・最近でも計画地内に住宅が分譲・販売され続けている。最近になって新しく住み始めた人たちを含めて、事業化の時期などを説明してほしい。

- ・測量の結果、現在示してある区域が広がる可能性があるのか知りたい。
- ・検討会の成果が計画に反映されているかがわかるように、計画の検討段階で内容を情報開示してほしい。

D グループ

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・都市計画道路補助 219 号線のルートが住宅街や施設の中を通るため、生活環境や施設運営に影響を与えることが心配である。その課題解決のため、当該道路のルートが変更されるよう、中央自動車道の制道や高架下を利用するなど計画の見直しを行ってほしい。
- ・地域が分断されて交通利便性が悪くなることか心配。今の生活動線やコミュニティの状況等を尊重し地域の現状を詳しく調べ直して都市計画道路の位置や線形等を再検討すべき。
- ・駅への交通、バス交通など利便性はどうか不安である。都市計画道路は住民生活の動線を精査して再検討してほしい。
- ・都市計画道路補助 219 号線は、日本女子体育大学の敷地を通るため、三鷹都市計画道路 3・4 号線とともに中央自動車道の制道を活用する形のルートへの変更を検討してほしい。その場合、ジャンクション付近に交通が集中するため、大気質への影響も考慮してほしい。
- ・都市計画道路線の整備において自転車専用レーンを設置することによって主要道路の渋滞解消を図ることができると、交通利便性や大気質の改善が期待できる。
- ・中央 JCT 周辺地域の交通の流れを改善し道路の利便性を向上させる必要がある。その課題解決のため、道路ネットワークが充実するよう、既存の中央自動車道の高架下の空間を道路用地として有効活用する方法もある。
- ・地域の効果的な道路ネットワークを形成するために、各道路の建設・管理主体である国・県・区が連携して外環周辺の道路整備を進めてほしい。

2. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・福祉施設やマンション、身体障害者施設などの生活系の建設が進んでいるため、新たな生活環境への影響や利便性に配慮した道路の整備が望まれる。その課題解決のため、外環周辺の建物の立地動向や土地利用に留意した道路線形が形成されるよう、地域交通計画を行ってほしい。
- ・昭和 41 年に決められた都市計画道路線形は、生活環境や施設経営（用地補償）の面で関係が生じると考えられる。したがって、交通ネットワークに配慮しつつ外環周辺の都市計画道路線形（主に都市計画道路補助 219 号線）を見直ししてほしい。
- ・都市計画道路補助 219 号線による用地補償があっても現在の敷地の周りに代替地がなければ、大学（日本女子体育大学）の経営に影響が生じる懸念がある。建て替えを行えば解決できるとも限らない。大学は立地条件や施設の状態で経営に影響するため、施設の性格も考慮して都市計画道路補助 219 号線を再検討してほしい。

3. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

管理の進め方に関するアイデア

- ・東八 C の設置により交通量が増加するため東八道路の渋滞の深刻化が懸念される。高井戸 IC に上り口を設けることにより東八道路の渋滞が緩和し、生活道路への通り抜けの減少も予想できるため、大気汚染や騒音・振動、交通安全の面での改善も期待できる。
- ・中央 JCT・東八道路 IC が複雑であるため交通事故が懸念される。その課題解決のため、中央 JCT の利用者が減少するよう、既存のインターチェンジの利用を促進する方策として高井戸 IC のフルインターチェンジを図ってほしい。
- ・外環の周辺道路の交通による排出ガス、振動、騒音などの環境全般に対する影響が懸念される。その課題解決のため、中央 JCT 周辺地域に集中する交通量が分散されるよう、既存の高井戸 IC をフルインターチェンジにしてほしい。
- ・外環の周辺道路の交通による交通事故の発生が懸念される。その課題解決のため、中央 JCT 周辺地域に集中する交通量が分散されるよう、既存の高井戸 IC をフルインターチェンジにしてほしい。

4. 環境（大気質）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・オープンのジャンクション部からの排出ガスによる悪影響が懸念される。その課題解決のため、排出ガスの外部への流出を抑えるよう、ジャンクション部にできる限り蓋をかけてほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・地域住民にとっては大気質の汚染が進んでいることが幅広くに確認できない不安がある。環境汚染の指標として、木枯れの状態を観察できるような外環の環境施設帯の緑地整備を提案する。

換気所の計画に関するアイデア

- ・外環の排出ガスの影響による喘息の悪化が懸念されるため、排出ガス処理の最新技術を導入してほしい。
- ・現計画では、換気所はトンネル内の排出ガスの処理のために設けられる施設であるため、オープンのジャンクション部から直接排出されるガスによる地域への影響が懸念される。できるかぎりジャンクション部の蓋けを行うとともに、排出ガスを最大限処理するための最新装置を換気所に設置する必要がある。
- ・トンネル内の排出ガスを換気所に集中させて適切に処理できるのか不安である。適切に処理するためには、換気所に最新の除塵脱臭装置を設ける必要がある。

- ・排出ガスによる周辺地域への影響を少なくするため、換気所の位置をジャンクションのエリアの中央部に移動し、1本にまとめた場合の効果について検討してほし。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・都市計画道路計補助219号線は、日本女子体育大学の敷地を通るため、三鷹都市計画道路3・4・3号線とともに中央自動車道の軌道を活用する形のルートへの変更を検討してほし。その場合、ジャンクション付近に交通が集中するため、大気質への影響も考慮して検討してほし。
- ・都市計画道路線の整備において自転車専用レーンを設置することによって主要道路の渋滞解消を図ることができるため、交通利便性や大気質の改善が期待できる。

管理の進め方に関するアイデア

- ・トンネルからの大気質の影響が換気所での処理では不安がある。その課題解決のため、より空気が浄化されるよう、トンネル内のジェットファンにも最新の排出ガス処理技術の導入を図ってほし。
- ・排出ガスの処理機能が備わっていてもメンテナンスが不適切になることによる影響の不安がある。その課題解決のため、ジェットファンやフィルターなどの処理装置の維持管理を常に適切に行ってほし。

その他の進め方に関するアイデア

- ・現時点の外環による環境影響の予測結果に満足するのではなく、より影響を低減するために、法改正も視野に入れて環境基準の厳格化を検討する必要がある。
- ・法律の基準に従うだけでなく、排出ガスによる影響をより低減するための対策を検討していくことが重要である。
- ・環境基準の信頼性がわからず、喘息患者にとっては特に大気質による影響が不安である。その課題解決のため、排出ガスによる少しでも低減するよう、国レベルでの排出ガスの規制強化を図ってほし。

5. 環境（動物、植物生態系）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・外環によって緑の減少が懸念される。その課題解決のため、潤いある景観や生態系にも配慮したグリーンネットワークが形成されるよう、周辺の既存の緑地と環境施設帯を活かした、地域のつながりある緑地を整備してほし。

6. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・排出ガスの影響を少しでも低減させるとともに、温暖化やヒートアイランド現象の対策にもなるよう、外環の環境施設帯を活用すべきである。その課題解決のため、様々な環境問題に対して対策が期待できる緑化を図れるよう、環境施設帯に植える樹種の選定等を行ってほし。
- ・外環によって緑の減少が懸念される。その課題解決のため、潤いある景観や生態系にも配慮したグリーンネットワークが形成されるよう、周辺の既存の緑地と環境施設帯を活かした、地域のつながりある緑地を整備してほし。

7. 環境（環境一般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

- ・外環整備に伴い喘息患者が増える懸念がある。その課題解決のため、排出ガス対策が適切に計画されるよう、現状の喘息患者数のデータを詳細に調査して実態を把握してほし。

8. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・外環の地表面に覆いをするのであれば、潤いにソーラーパネルを貼るなどして積極的に外環整備によるメリットを生み出せるとよい。
- ・振動で発電する実験が他の事例で行なわれていることを踏まえ、外環の計画においても同様な取り組みを検討してみるべきである。電気は住民も利用できればよい。
- ・ジャンクション部分にできるかぎり蓋をかき、その上の空間を活用して、地域コミュニティのための緑化や公園整備を行ってほし。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・ジャンクション上部に蓋をかきつけて大きな環境施設帯をつくれれば、排出ガス対策や緑化だけでなく防災基地としても活用できる。高速道路と直結しているため災害物資の輸送などに有利であり、外環の価値を高めることができる。

換気所の計画に関するアイデア

- ・換気塔からの排気で発電するなど、外環の整備によりプラスの効果が生まれるように考えるべきである。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・ 蓋がけした場合は上部空間を地域や社会のために積極的に有効利用すべきである。その課題解決のため、防災・救援に役立つ施設になるよう、ヘルポートを整備してほしい（車両用施設より空輪施設のほうが確実で効果的である）。
- ・ エイトライナー計画が難航しているのであれば、外環の地下空間を使った「外環ライナー」計画を検討してはどうか。それが実現すれば車を使わなくても南北方向の移動が便利になる。

9. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ 外環による地域分断を解消するため、東八ICからのジャンクションへの進入路をできるかぎり地下化、または手前から下ろすなど、東西に連絡できる部分の幅を広げられるよう工夫してほしい。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・ 自転車の交通量が今後増えた場合でも、自転車と歩行者が円滑かつ安全に通行できる道路の整備と交通規制が必要である。
- ・ 地域分断を生じさせないためにも、地域の重要な生活幹線道路である吉祥寺通りの利便性を高めるように工夫し、都市計画道路三鷹3・4・11と吉祥寺通りとの連絡位置を再検討してほしい。

PIの進め方に関するアイデア

- ・ ジャンクション部に蓋がけできる部分がないため、アイデアを出しても実現可能であるのか不安である。そのため、具体的な検討ができるよう、蓋掛けできる部分の図面や情報がほしい。
- ・ 今まで出された意見をもとに対策を実施することのようになるのか事前に知ることが次の検討に効果的である。そのため、アイデアを実現させた場合のイメージがわかるよう、OGなどをいったシミュレーションがほしい。

10. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・ 東八ICの設置により交通量が増加するため東八道路の渋滞悪化が危念される。高井戸ICに上り口を設けることにより東八道路の渋滞が緩和し、生活道路への通り抜けの減少も予想できるため、大気汚染や騒音・振動、交通安全の面での改善も期待できる。

11. 安全・安心（災害・事故時の対応）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

- ・ 集中豪雨により外環のトンネル内が冠水して危険にさらされる心配がある。排水対策は検討されているのか、おしえてほしい。されていなければ、しっかり検討して排水対策を実施すべきである。

12. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

- ・ 外環の排出ガスの影響について、幼稚園・学校だけでなく公園など不特定多数の人が集まる施設の詳しい予測データを住民等にわかりやすく伝えてほしい。
- ・ 換気所からの排出ガスによって喘息患者が増えると同時に都の医療負担が増える懸念がある。その課題解決のために、喘息患者が増えないよう、大気汚染の実態を詳細に把握した上排出ガス対策を行ってほしい。
- ・ 大気質の影響調査の測定値が一箇所だけを示して説明されたため、他の箇所での影響が心配である。その課題解決のため、多くの箇所での影響の予測値がわかるよう、大塚などの地点も含めた詳細な調査結果を示してほしい。
- ・ ジャンクションが使用されなければ外環の排出ガスの実際の影響はかわらないため、供用開始後の環境影響の測定を定期的に実施してほしい。
- ・ 外環整備後の地下水への影響が心配であり、影響調査が継続して的確に行われるかが不安である。その課題解決のため、供用後も環境影響を把握して的確な対策が打てるよう、長期定期的に調査を実施するとともに現地の状況に詳しい専門家を入れた分析評価を行ってほしい。

計画の進め方に関するアイデア

- ・ 日々進化している大気汚染対策技術の活用が望まれる。その課題解決のため、事業行程の中でできるだけ排出ガス処理が行われるよう、工事段階においても最新技術を導入してほしい。

管理の進め方に関するアイデア

- ・ 中央自動車道と外環の管理主体が分かれていると、問題が生じた際に適切に対応できない場合があることが考えられるため、柔軟に対応できる管理計画を立てほしい。外環の管理主体が中央自動車道と同じであるのが知りたい。

PIの進め方に関するアイデア

- ・外環整備が地域にとって悪影響だけをもたらす結果になってしまふ懸念がある。その課題解決のために、さらに付加価値が高まるよう、地域や社会にとってメリットをつくりだすものにしてほしい。

13. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・様々な課題解決のアイデアを出しても地権者が合意しないことにより実現できないという懸念がある。その課題解決のために、隣接区市内も含め同意が得られるよう、地権者への十分な対応により合意形成を適切に進めてほしい。
- ・住民意見が適切に反映された計画にするため、調査や計画の検討の経緯・内容の途中チェックや確認に住民が参加できる方法で検討を継続してほしい。
- ・調査や計画の検討の経緯・内容の途中チェックや確認を住民が行えるようにする。

14. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

PIの進め方に関するアイデア

- ・東八道路周辺の大気質が現状で環境基準を超えているのではないかと心配である。東八道路をはじめ、主な地点の大気質の状態をおしえてほしい。
- ・環境影響の予測結果を詳しく知るためには、分厚い評価書をしっかりと読まなければならない。公告・縦覧などの中でわかりやすく説明を受けることができることよい。
- ・外環や周辺の都市計画道路の整備に伴う用地補償について、地権者など権利関係者の合意形成が必要である。
- ・地域の適切な道路ネットワークが重要であり、外環本線と周辺道路の整備時期がずれていると地域の交通渋滞が起るため、周辺の計画道路と本線との整備の内容やスケジュールなどの整合性について情報を提供してほしい。
- ・道路整備による地域住民の生活への影響を回避するため、工中や供用後の交通規制などの情報を事前に公表してほしい。
- ・調査や計画の検討内容を誰もが容易に把握できるよう、広報などで内容を公表する。

Eグループ

1. 交通（地区交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・東八IC完成後に烏山通りに車が流入することを懸念している。そのため都市計画道路沿路補助216号線、217号線の整備を東八IC完成に合わせて進めるべきである。
- ・現在も東八道路、烏山通り、吉祥寺通りの渋滞を避け生活道路に車が流入している。インターチェンジの出入り口ができれば即座に渋滞は悪化する。外環整備と平行して周辺道路の整備が絶対必要条件である。
- ・今計画されている都市計画道路では中央JCT周辺の渋滞解消はできないのではと思う。道路単体ではなく、もっと広いエリアを一体的に、道路網として考えて計画してほしい。
- ・外環整備に伴い都市計画道路補助219号線を新たに整備するのであれば地域への影響が少なくなるよう地下にするのだろうか。どこで地上に出すかは問題だが。
- ・都市計画道路補助219号線が大学の敷地内を通るため、大学側としてはとても厳しいと感じている。ぜひ異なるルートで整備してほしい。
- ・生活道路を再整備し、すっきりした道路網を検討すべきである。
- ・周辺の生活道路については、環境施設帯内に含まれてなくなる道路もあることから、代替道路整備も含めて、今後どうするべきか、この場できちんと意見を出し、隣市などの行政間と連携をとりながら進めていく。
- ・JCT、環境施設帯が整備されることで、周辺に行き止まり道路ができないように、代替路線の検討等、それらの対策を練る。

2. 交通（幹線交通）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・外環整備と平行して、都市計画道路や主要道路（東八道路、吉祥寺通り、甲州街道(国道20号)、烏山通り）の整備を行い、今よりも快適な生活環境をつくってほしい。
- ・周辺の都市計画道路整備の目処も立たない中で外環整備を進めれば、烏山通りなど周辺の生活道路への通り抜け車両が増加することは間違いないことから、現実性のない都市計画道路を見直し、むしろ烏山通りをはじめとした生活道路の整備を早急に進め、安全・安心の歩行空間を確保する。
- ・都市計画道路補助219号線を含め、周辺の都市計画道路を整備する際に代替地などの補償の確約もい中で、外環整備が進められるのは不満である。都市計画道路についてまた具体的にやっていないのであれば、外環整備に併せて見直しをし、むしろ生活道路を整備する。
- ・外環整備後、東八ICから東八道路を通り、都市計画道路補助217号線に車が流れられる可能性は極めて低く、むしろ烏山通りの通過車両が増加することが予測されることから、都市計画道

路補助217号線の見直しをし、烏山通りをはじめとした生活道路の整備を優先する。
 ・東八ICから甲州街道(国道20号)へ向かう車は烏山通りに集中し、烏山通りが渋滞するのと明白であるため、烏山通りを再整備する必要がある。

- ・東八IC東側の都市計画道路補助216号線、217号線はIC完成時に整備されているか不明なため現実的対策とは言えない。既存の烏山通りの拡幅の方が、時間的、ルートの、事業費的にも現実的対策案だと思う。
- ・都市計画道路補助216号線、217号線が整備されたとしても、東八ICの位置から考えると甲州街道(国道20号)へ抜けるには遠回りになるため、より近い烏山通りを使う人の方が多いのではないかと。都市計画道路に加えて、烏山通りの整備を考へるべきである。
- ・烏山通りは狭い歩道を自転車と歩行者が利用しており、子供たちの安全を考えると新たな道路をつくるよりも烏山通りを改良するべきである。
- ・都市計画道路補助219号線はなぜ必要なのかという理由が明らかでない。環境施設帯に側道を設ければ十分ではないのか。
- ・都市計画道路補助219号線と調布都市計画道路3・4・13の整備理由が不明なことから、外環整備を機に見直しをする必要がある。
- ・東八IC完成時に烏山通りに車が集中しないために、烏山通りの東八道路出口は左折禁止にするなどの規制をする必要もあるのではないかと。
- ・東八ICができることが、都市計画決定されたときに分かっていたとすれば、都市計画道路補助219号線などの都市計画道路は同時に見直すべきだった。都市計画道路補助219号線は側道をつくることで代替できる。
- ・都市計画道路補助129号線と調布都市計画道路3・4・17号線と甲州街道の交差点、あのような複雑な交差点をつくる意味はない。都市計画道路を見直すべき。
- ・外環整備前に都市計画道路が整備されなければ、外環をつくっても機能しない。東八道路は本当に整備されるのか疑問である。整備されてからでないか、外環をつくる意味がない。
- ・東八ICからどのような人が乗り降りするかを考えると、実は利用者は多くないのでないか。
- ・現在整備されていない中で、調布都市計画道路3・4・17号線(三鷹都市計画道路3・4・11号線)の必要性が不明である。都市計画道路を見直すべき。

3. 交通（広域交通）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・ランプの構造が複雑で、そのままICに車が流れると、交通渋滞につながる。スマートICを導入し、ランプ構造もシンプルにし、IC付近の交通渋滞を避けるための工夫をする。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・インターチェンジが東八道路1カ所だと、そこから甲州街道(国道20号)へ向かう車は烏山通りなどを通ることになり、今以上に渋滞がひどくなる。ジャンクションから甲州街道(国道20号)へ出たい人のために甲州街道(国道20号)側にもインターチェンジが必要である。

管理の進め方に関するアイデア

- ・東八ICへの一極集中や周辺道路の渋滞を回避するため、道路整備だけでなくソフト対策も必要だと思ふ。例えば、外環利用車が中央自動車道の永寿町料金所や調布ICから入る場合は外環通行料のみ払うことにすれば、東八ICに車が集中しないですむ。

4. 環境（地下水）の課題に対応するためのアイデア

トンネル部の計画に関するアイデア

- ・工事により、地下水脈（みずみち）が分断されることが懸念される。保全対策を考へるべきである。

5. 環境（緑の量）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・緑多い地域であるが、中央JCT、東八ICができることでその多くが失われることが懸念である。そうならないように復元してほしい。

6. まちづくり（まちづくり全般）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・中央自動車道の高架下を有効利用する。充分な遊憩空間になる。また高架下にある公園は、雨が降っても遊べるし、災害時にも人が集まることができる。
- ・高架下は遊憩場所として有効活用できる。そのために耐震性を充分揃えることが必要である。
- ・高架下を交流の場としてほしいが、そうでなければ道路として整備する。給水タンクや駐車場などを高架下に勝手につくらないでほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・環境施設帯をきれいに管理していくために、地域の人の使われ、管理してもらえようにする必要がある。
- ・地域分断を、現状をよくする機会と捉えるべき。この機を活かし、交流の場、子どもたちのひびびできる場、防犯、安心して歩ける場を創出する。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・外環整備により生活道路への通り抜けや車庫の増加や、地域分断が懸念されることから、高齢者や車椅子も安心して移動ができる、バリアフリーの視点で道路整備、まちづくりを進める。
- ・外環の整備に伴う排気計画について心配している。最近は大雨も多くなってきているので、たとえ10年に1回、5年に1回程度であっても、大雨の際にも十分対応できるような計画にすべきである。
- ・この地域は、降雨時に浸水の課題があることは明らかであるが、遊水池の設置場所も含め、降雨時に関する説明力のある説明がないことから、地域特性を理解した上で、具体的な提案をする。
- ・集中豪雨が頻繁にある昨今、周辺地域への浸水が懸念されることから、調布市などの近隣市と連携をはかりながら、説明力のあるデータを基に、浸水対策を進める。

計画の進め方に関するアイデア

- ・地域が高齢化していくことを踏まえ、車がなくても移動がしやすい、歩いても移動ができるということを意識したまちづくりを考へるべきではないか。
- ・地域が分断されると、より近くに学校があっても区市が遠うので外環をまたいで通学しなければならぬ児童、生徒が出てきてしまう。三鷹市民であっても世田谷区の学校に通えるといった、区市を越えた措置も必要ではないか。
- ・すでにコミュニケーションができており、祭りや町会活動なども異なっているため、なかなか難しい面もあるが、外環による分断が発生することを踏まえ、行政区の区分けを新たに考へる必要もある。
- ・最も心配な浸水の問題は、長年住んでいないと理解しづらい問題である。温暖化が進み、集中豪雨がある実情にあわせ、浸水対策は時間降水量100mmに対応できることが必須である。

7. まちづくり（地域分断）の課題に対応するためのアイデア

ジャンクション部の計画に関するアイデア

- ・外環整備に伴い都市計画道路補助219号線を新たに整備されると地域生活が成り立たない。新たに整備するのではなく、中央JCT敷地内に道路を新設するなど、周辺地域への影響を小さくする工夫をしてほしい。

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・吉祥寺通りが分断されないように、三鷹都市計画道路3・4・11を環境緑地帯内で延ばし吉祥寺通りにつなげればよい。
- ・環境施設帯を使って車が横断する道を確保するのは難しくても、徒歩で渡れる道が確保できれば、通学の難などに利用でき、完全な地域分断を避けることができると思う。

- ・環境施設帯の有効利用として、地表面に自転車道や遊歩道を整備してほしい。
- ・都市計画道路補助219号線の代替として、環境施設帯に緑道を設置する。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・これまでの生活道路が外環整備により広範囲にわたりになくなり生活が成り立たない。これまでの生活ができるような代替道路の整備が必要である。
- ・JCT、環境施設帯が整備されることで、周辺に行き止まり道路ができないように、代替路線の検討等、それらの対策を練る。
- ・吉祥寺通りが分断されたバス路線がなくなってしまうと、バスの便があることを前提にして住んでいる地域住民にとっては大きな損失になってしまいます。日常生活の便を考え、バス通りとしての機能を確保する必要があります。
- ・外環整備によりバス通りである吉祥寺通りが分断されてしまうが、通学・通勤でバスを利用する住民のために、代替ルートをつくり、バス通りの機能を確保する。

P1の進め方に関するアイデア

- ・将来、交流の場として、「このような場の創出がある、このようなものができる」と具体的な案が示されれば、近隣住民は我慢できるはず。今よりもっとよくなるということを具体的に提示してほしい。

8. まちづくり（土地利用）の課題に対応するためのアイデア

環境施設帯の計画に関するアイデア

- ・鳥山8丁目と9丁目はこれまであまり地域間の交流がなかったが、外環によって分断される可能性が出てきたことを契機に、絆が深まるよう、環境施設帯を利用した地域交流の場をつくりたい。
- ・環境施設帯を地域住民が利用できるようにしてほしいと考えているので、利用方法を提案するために、使える場所や時期を教えてください。
- ・環境施設帯の地域への開放を提案したいが、世田谷区は面制的にあまりかかっていないため、意見が反映されず、利用できる面積も限られるのではないかと危惧している。環境施設帯は国、都、区市のどこも所有で、管理はどこがやるのかが気になる。
- ・環境施設帯を、子どものスポーツ活動などに利用し、地域や親子のコミュニケーションの場として有効活用したい。
- ・環境施設帯を使った地域交流の場を作ることによって、将来的に地域住民の資産になるようなよいものを残したいと思っている。
- ・環境施設帯を地域で利用し管理もしていくために、皇親制度のように国から区、市に管理が委託できるようにしてほしい。
- ・環境施設帯をネットで囲うとゴミの投げ入れで荒れてしまうし、住民が清掃をしたくも中に

入ることでもないため、地域の人が管理できるようにネットで囲うべきではないと思う。

周辺部の計画に関するアイデア

- ・鳥山通りを拡幅するにしても、片側はすでにマンションが立ち並び、もう一方も道路後退できるのが現状である。拡幅するのなら、沿道の建築規制を早い段階から行う必要があるのではないのか。

9. 安全・安心（交通安全・治安）の課題に対応するためのアイデア

周辺部の計画に関するアイデア

- ・鳥山通りは、徒歩や自転車を利用する児童・生徒が多く、車が増えれば交通事故の発生が強く懸念される。安全確保のための対策が必要である。

10. 工事中（工事中の安全性）の課題に対応するためのアイデア

工事の進め方に関するアイデア

- ・工事中は安全を第一に考えた工事を進め、周辺地域の生活道路にトラックが侵入したりしないようにする。
- ・工事中は周辺地域の生活道路にトラックが通過することか心配であるために、通学路を避けた工事車両のルートを予め決め、地域に知らせることで、安全の確保をはかる。
- ・工事期間がわからないと、地域住民に不安や不満が出るが、スケジュールを予め明確にすれば、住民も、我慢ができる。

11. 用地・補償の課題に対応するためのアイデア

用地・補償の進め方に関するアイデア

- ・外環整備をしたことで、集中豪雨時に外環トンネル内のみならず、周辺地域の浸水も懸念される。地域へ浸水が起きた時に、何らかの補償をする。
- ・住宅などの建築中に外環工事による被害が出たときのクレーン補償の対応がどのようにになるか心配である。クレーン補償に対応してほしい。
- ・都市計画図で見える限りでは、都市計画線が敷地にはかかっているが建物にはかかっていない状況である。敷地の一部だけ削られると車の置き場や車の出入りができなくなる。高齢なので急に今後の対策を考えたいが、計画線が確定ではないので対策が立てられない。
- ・外環整備に伴い都市計画道路補助219号線が整備されると、日本女子体育大学の敷地が分断され、大学設置基準の、敷地面積等の基準を満たすことが難しくなり運営上問題となる。補償制度を早急に示してもらい、代替地を確保したい。

- ・計画のために痛みを伴うときは、完成後に今以上のすばらしい将来像が見えれば、人は我慢するものである。また、補償面を送り込むのではなく、具体的な提示をする。

12. 計画検討の進め方（計画検討全般）の課題に対応するためのアイデア

調査の進め方に関するアイデア

- ・換気所が十分に機能しているか、継続的にチェックするために、将来にわたって排出ガス調査データを収集し解析してほしい。その解析結果も正確に情報提示し、他の場所の計画にも活用してほしい。
- ・外環整備により、多摩川から流れてくる地下水が切れ、地下水が溜ってしまいうことから、正確なデータ収集をし、調査をした上で対策を練り、地域へ公表する。
- ・周辺地域の河川はほとんど閉塞であり、現時点でも浸水被害が多いことから、外環整備により、さらに同様の被害が懸念される。地下水脈の調査をすることが必要である。

P1の進め方に関するアイデア

- ・住民は、地域が今以上によくなるということが具体的に示され、納得できれば、多少の権利関係は我慢できるものである。中央自動車道の計画時とは異なり、今回はせっかくP1方式で進めているのだから、やるのであれば、早く具体的な案やメリットを提示し、進めるべきである。
- ・計画のために痛みを伴うときは、完成後に今以上のすばらしい将来像が見えれば、人は我慢するものである。また、補償面を送り込むのではなく、具体的な提示をする。
- ・外環に接する住民には当然迷惑ではあるが、地域のためになり、そして自分たちにも何らかのメリットがあれば、我慢するものだ。整備すると地域のためになるという案が具体的に提示されないことへの不満があるので、整備後の地域の将来像の具体的なイメージを明確にする。
- ・都市計画決定がされている以上、前向きに計画を進めてよいと思うが、地域に何らかのメリットが生まれることを具体的に提示し、地域が納得した上で計画を進めることが必要である。中央自動車道の計画時のように地域にメリットがない状況では、今回は計画が進まないだろう。

13. 計画検討の進め方（意見反映）の課題に対応するためのアイデア

計画の進め方に関するアイデア

- ・検討会終了後、今後のスケジュールなどの情報共有の場がなくなること、住民には情報が少ない、あるいはあっても行政からの一方的な情報になるため、今後も情報共有の場や意見交換の場をつくり、それらをシステム化する。
- ・工事中、供用後など、何かが起きたときにどこへ言えばよいのかかわからないことから、外環に伴う問題についての「すくやくる課」を設置し、窓口を一本化する。
- ・今後の進め方が重要である。住民の意見に対し、行政が返事をするのが次のステップである。明確な説明をし、具体的な案を出すべきである。

- ・今後は、進歩の段階ごとにやりとりの属を設ける。段階ごとに、住民の意見に対し行政の提案を出す。また、住民のアイデアに対し可能かどうか、できない場合はその理由も説明する。その際について、どこまで進めるのか、スケジュールも示す。

- ・5ヶ月間も検討会を続け、意見や懸念、懸念を言うだけで終わりで不安を助長させるだけ。懸念に対して具体的な取り組みの提示がないので不安になる。地域へ明快に返答、説明をした上で進めるべきである。
- ・返答に時間をかけすぎであり、意見を言うだけ言わね、意見を聞いたというアリバイづくりを行い、そのまま進むように見える。地域へ明快に返答、説明をした上で進めるべきである。

- ・今後は、テーマを絞って進める。例えば、地域分断と有効利用、大気、水など、テーマを設けて、建設的な意見を言う場にする。

- ・住民は不可能なことをやれとは言っていない。段階ごとに、住民の意見に対し実現できるのか否か、できない場合はその理由を明らかにしてほしいと言っているだけ。住民のアイデアに対し、実現する可能性があるかどうか早く知りたい。

- ・住民ひとり一人が何を望んでいるのか、テーマごとにアイデアや意見があるので、それを把握する。多数決で決めるのは疑問である。テーマごとに討議をすれば、関心のあることを話すことができるので、メンバーも拡大し、参加する人も増える。

- ・松葉通りと鳥山通り周辺が雨の時、水が溜まりハンクしてしまうが、なかなか改善されない。現在、地域と行政の信頼関係が崩れている。外環についても日々のやりとりができる「すくやくる課」を設置する。

- ・今後の進め方について、前向きな議論を行う。住民の意見を少しでも取り入れてもらいたい。基準値を数値として明確にする。住民の意見に対して、まず行政は具体的な返事をする。

- ・地域分断を避けるために、周辺道路や接続道路について地域で考えるべきということだが、具体的に考えたところで、自分たちの意見をどこまで採用してくれるのか懸念がある。最終的にこちらの意見を採用しないのであれば、「行き止まり道路はつくりたくない」といった最低限の意見を踏まえて、行政側から地域へ具体案を提示するべきである。

P1の進め方に関するアイデア

- ・懸念と愚痴の繰り返しなのである。その段階はここで終了し、具体的な議論に入り行政に返事をしてもらうように進める。
- ・今まで十分に苦んで、徹んで心配ごと懸念を出した。この後は明るい前向きなアイデアや意見をだし、議論をしたい。

14. 計画検討の進め方（情報の提供）の課題に対応するためのアイデア

P1の進め方に関するアイデア

- ・換気所の高さが15mでは低すぎ、風が強いときなどそのまま周辺地域に排気が下りてくるとではないか。どのような方法で高さを決めていくのか。
- ・大梁架構造物の耐震性を十分に検討しているのかという住民の心配に対し、行政は耐震基準な

どの情報を住民に解るよう説明し公表する。

- ・最も心配な浸水の問題は、長年住んでいないと理解しづらい問題である。温暖化が進み、集中豪雨がある実情にあわせ、浸水対策は8時間降水量 100mm に対応できることが必須である。
- ・データ、数値について、環境変化の著しい実情に即した基準値へ見直すべきである。
- ・具体的数値がどれほど予算も決まるものである。行政は予算を決めてから、それにあった計画内容にするようだが、最初にデータ、基準値を決めた上で計画内容を決めるべき。
- ・阪神淡路大震災で高速道路がつぶれることは分かっていた。信頼性がないのだから、裏づけとなる具体的数値が提示されないとは検討することができない。これまでの説明だけでつくられてはたまらない。
- ・道路の補強方法について疑問がある。道路が壊れた時に地域分断される中で、どのように処理、対応をしていくのかが疑問である。
- ・方向性だけではなく、交通量（混雑状況の把握）、配線、降水、緑など、実情に即した具体的数値を出すことで全計画が決まり、進めることができる。
- ・日本女子体育大学を通る、都市計画道路補助 219 号線はどうなるのか、関係者は補償も含め不安である。外環の話だけでなく、周辺の計画、現状を説明する場が必要である。
- ・出したアイデアについて、表現が「～の確保」、「～の実施」と体言止めの書き方である。実行するのが否かわからない書き方である。主催者側は住民が納得できる明快な答えかたをする。